

福井県池田町の部子山で拾得されたヒメヒミズ *Urotrichus talpoides*

出口翔大^{*1}・八木正邦²・梅村信哉¹

要旨：福井県今立郡池田町部子山で2020年6月にヒミズ類2個体の斃死体を拾得した。2個体の尾率は56.2%および57.8%で、第一切歯の形状は四角く扁平であった。これらの形態的特徴から拾得した2個体はヒメヒミズであると判断され、本種の県内2例目および3例目の記録となった。県内に福井県内におけるヒメヒミズの生息情報は極めて乏しく、近隣の県では絶滅危惧種にも選定されていることから、今後は県内における本種の生息状況の把握が望まれる。

キーワード：2020年6月、福井県2例目、標高1,400m、ヒメヒミズ *Urotrichus talpoides*

Shota DEGUCHI^{*1}, Masakuni YAGI², Shinya UMEMURA¹. 2021. Lesser Japanese shrew-moles *Urotrichus talpoides* found from Mt. Heko in Ikeda town, Fukui prefecture. Ciconia (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center) 24:21-23.

Dead two individuals of shrew-moles were found on June, 2020 in Mt. Heko in Ikeda town, Fukui prefecture. Tail ratio of these individuals showed 56.2% and 57.8 %, respectively, and their first incisor showed square and flat shape. Both of two individuals were identified as Lesser Japanese shrew-mole from these morphological characteristics. These individuals were the second in Fukui prefecture. Distribution information on this species is extremely poor in Fukui prefecture, and the species listed as threatened in the neighboring prefectures. It is needed to understand distribution status of this species in Fukui prefecture.

Key words: The second record, June 2020, 1,400m elevation, Lesser Japanese shrew-moles *Urotrichus talpoides*

日本に生息するモグラ目モグラ科のヒミズ類にはヒミズ *Urotrichus talpoides* とヒメヒミズ *Dymecodon pilirostris* の2種が存在し、いずれも日本固有種である (Ishii 2015a ; 2015b)。両種は同所的には生息しておらず、標高の低い土壌の発達した環境にヒミズが、高標高の岩礫が占める土壌未発達環境にヒメヒミズが生息する (石井 1996)。したがって、両種は本州、四国、九州に分布するものの、ヒミズに比べて、ヒメヒミズの分布は局所的である (Ishii 2015a ; 2015b)。福井県では2001年に大野市の平家平において初確認されているものの (三原 2006)、その後の情報は無く、県内における本種の生息状況は不明である。

筆者らは、2020年6月に、福井県今立郡池田町において、2個体のヒメヒミズの斃死体を拾得したので報告する。

採集地：福井県今立郡池田町水海 部子山 (標高1,464.6 m)

採集年月日：2020年6月27日

個体数：2

採集者：八木正邦・梅村信哉

採集した個体は毛皮標本および頭骨標本として福井市自然史博物館に収蔵した (FCMNH-Ma550a, 550b, 551a, 551b)。

採集場所はアスファルト舗装された林道の最終地点 (P0) から歩いて頂上に至る登山道で、標高は1,400m付近であった。

ヒメヒミズはヒミズに比べ尾率 (尾長/頭胴長) が大きいとされる (石井 1996 ; 阿部 2005)。拾得された2個体 (以後、個体1および個体2) の尾率を算出したところ、個体1は頭胴長が64mm、尾長が36mmで尾率は56.2%であった。個体2は頭胴長が64mm、尾長が37mmで尾率は57.8%であった (表1)。これらはヒメヒミズの尾率の範囲内 (43-60%) に含まれる (Ishii 2015a)。一方、比較対照として計測した2019年4月5日に福井県福井市深谷町の下市山 (標高260m) にて拾得された個体 (以後、対照個体) は、頭胴長が83mm、尾長31mmの尾率が37.3%で、拾得された2個体よりも尾率が明らかに小さかった (表1, 図1)。この値は長崎県対馬のヒミズ個

* 連絡・別刷請求先 (Corresponding author)

1 福井市自然史博物館 〒918-8006 福井県福井市足羽上町147
Fukui City Museum of Natural History, Asuwakami-cho 147, Fukui, Fukui 918-8006, Japan.

2 福井市自然史博物館ボランティア 〒918-8006 福井県福井市足羽上町147
Volunteer of Fukui City Museum of Natural History, Asuwakami-cho 147, Fukui, Fukui 918-8006, Japan.

表 1. 2020 年 6 月 27 日に池田町水海の部子山で拾得された個体 1 および個体 2 と 2019 年福井市産の対照個体における各部位の計測値

Table 1. Measured values of the individuals No.1, No.2 (*D. pillirostris*) obtained from Mt. Heko in Misuumi, Ikeda town, Fukui on June 27th, 2020, and a comparative individual (*U. talpoides*) obtained from Fukui city in 2019.

	全長 (mm) Total length	頭胴長 (mm) Head body length	尾長 (mm) Tail length	尾率 (%) Tail ratio	後足長 (mm) Hind foot length	体重 (g) Body weight
ヒメヒミズ (個体1) <i>D. pillirostris</i> No.1	100	64	36	56.2	11.6	7.1
ヒメヒミズ (個体2) <i>D. pillirostris</i> No.2	101	64	37	57.8	11.1	5.7
ヒミズ (対照個体) <i>U. talpoides</i>	114	83	31	37.3	12.8	15.9



図 1. 個体 1, 個体 2 および対照個体. スケールの単位は 1cm.
Figure 1. Individuals No.1, No.2 (*D. pillirostris*) and a comparative individual (*U. talpoides*) obtained from Fukui city in 2019. The unit of scale is 1 cm.

体群の値に近かった (Ishii 2015b).

さらに両種は第一切歯の形状で識別が可能である (林・子安 2000a; 阿部 2005). すなわちヒメヒミズの第一切歯は先端の幅が広いのに対し、ヒミズの第一切歯は三角の尖った形状をしている (阿部 1994, 林・子安 2000a). 個体 1, 個体 2 および対照個体の第一切歯の形状を観察・比較したところ、個体 1, 個体 2 は先端の幅が広く (図 2ab), 対照個体は三角の尖った形状をしていた (図 2c).

これら 2 点の外部形態の特徴から、個体 1 および個体 2 はヒメヒミズ、対照個体はヒミズであると同定された。これらヒメヒミズ 2 個体は福井県内における本種の 2 例目の記録となった。

ヒメヒミズの分布は本州中部で 1300~1800m 付近とされており (阿部 1965), 今回本種が拾得された標高 (約 1,400m) もその範囲内にあった。福井県では標高約 1,000m で記録されているほか (三原 2006), 石川県の白山山麓では標高約 400m~600m の低い範囲にも生息しており、多雪による土壌の未発達と関係があると考えられている (林・子安 2000b). そのため、福井県内においてもより低標高の地域に本種が生息している可能性は高い。本種は福井県において絶滅危惧種に選定されていないものの (福井県 2016), 近隣の石川県では「準絶滅危惧」に、岐阜県では「情報不足」に選定されている (岐阜県 2015; 石川県 2020). 今後は大野市平家平 (三原 2006) や本報告の部子山等、福井県内における本種の既知の生息地保全に努めるとともに、県全域における本種の生息状況の把握が望まれる。

謝辞

福井県安全環境部自然環境課自然環境保全グループの西垣正男氏には原稿を読んでいただいた。ここに記して御礼申し上げる。



図2. 個体1, 個体2 および対照個体の第一切歯の形状. スケールの単位は1mm.

Figure 2. Shape of first incisors of the individuals No.1, No.2 (*D. pilirostris*) and a comparative individual (*U. talpoides*). The unit of scale is 1 mm.

引用文献

- 阿部永(監), 1994. 日本の哺乳類. 195pp. 東海大学出版, 東京.
- 福井県, 2016. 改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016. 536pp. 福井県安全環境部自然環境課, 福井.
- 林哲・子安和弘, 2000a. 白山のヒミズー落葉層に生きる哺乳類. 石川県白山自然保護センター普及誌はくさん 28(2) : 11-13.
- 林哲・子安和弘, 2000b. 石川県におけるヒミズ類の分布. 石川県自然保護センター研究報告第 27 集 : 29-36.
- 石井信夫, 1996. ヒミズとヒメヒミズ. 川道武男(編) 日本動物大百科 1 哺乳類 I. 平凡社, 東京. p24-25.
- Ishii N, 2015a. *Dymecodon pilirostris*. In: Ohdaichi S. D., Ishibashi Y., Iwasa M. A., Fukui D., Saitoh T. (eds.)

The wild mammals of Japan second edition. SHOUKADOH Book Sellers and the Mammal Society of Japan, Kyoto. Pp28-29.

- Ishii N, 2015b. *Urotrichus talpoides*. In: Ohdaichi S. D., Ishibashi Y., Iwasa M. A., Fukui D., Saitoh T. (eds.) The wild mammals of Japan second edition. SHOUKADOH Book Sellers and the Mammal Society of Japan, Kyoto. Pp30-31.

石川県, 2020. 石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック 2020<動物編>. 329pp. 石川県生活環境部自然環境課, 金沢.

岐阜県, 2015. 岐阜県レッドデータブック改訂版. <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/4339.html> (参照日 : 2020/12/4).

- 三原 学, 2006. 2001 年福井県大野市で確認されたヒメヒミズ. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 11 : 35-3.